



カピバラのリク、亡くなる

オスのカピバラのリク（2歳10カ月）が平成24年2月9日18時過ぎ、亡くなりました。すでに本ホームページ上ではお伝えしているところですが、それを見たファンの方からメールやお電話でリクを悼むお言葉をいただきました。たくさんの方にリクが可愛がられ、愛されていたということをあらためて感じました。またそんな中で、リクが死んだ経緯が分からないというお話もいただきました。確かに「移動中の事故」だけでは「何があったの？」と不安がられるのも無理はないと思います。そこで今回は、あらためて死亡に至った経緯についてお知らせしたいと思います。



癒し系代表

かみね動物園は先の大震災で、タヌキやアライグマなどの小獣舎が被害を受けました。これを再建するため、この春のオープンに間に合うよう今月から工事を始めました。そこにはカピバラも入る予定のため、工事期間だけリクを別な獣舎に移動させることにしました。移動日は平成24年2月9日。時間は15時ごろ。獣医が少し鎮静剤を投与し、落ち着いたら皆で運ぶことに。しかし鎮静効果を見て運ぼうとするとリクは興奮して暴れ、あちこちぶつけながら逃げ回りました。そのため、時間をおいて2度目の鎮静をかけ、何とか仮の獣舎に収容することができました。その後新たな獣舎に移ったリクですが、今度は覚醒の時暴れてしまって立ち上がることもできませんでした。何度か立とうとしましたが、だめでした。横たわったままのリクですが、まわりの気温も低く体温も奪われていってるようでした。このため床にワラを敷き詰め赤外線ヒーターで体を温めながら酸素吸入などを行いました。しかしそうした手当の甲斐もなくリクは18時過ぎ、静かに息を引き取りました。



水場が好き

後日、解剖の結果が獣医より上がってきました。所見として、切歯の折損や体数か所の擦過傷のほか肺充血、肝臓や腎臓表面のうっ血とみられる斑状模様、さらに肝臓、脾臓の脆弱などが認められたことから、死因はショックによる循環不全と判断されました。わかりやすく言うと、外傷を伴うストレスにより血流が悪くなり循環不全に陥り各臓器が機能しなくなったということでしょうか。

以上が亡くなった経緯です。鎮静をかけてから3時間ちょっとの出来事でした。私は18時過ぎに別な予定が入っていたので電話連絡で訃報を受けましたが、あまりにも急な展開に言葉もありませんでした。突然の事態に担当していた飼育員の落胆はそれ以上だったと思います。



ありし日のリク

私たちは動物移動に際しては動物にストレスを与えないよう細心の注意を払っています。クロサイなど大きな動物の場合は、移動用のオリに入れるため何日も前からオリに入る練習をします。今回の移動はそこまでではないにせよ、齧歯目最大の動物で体重47キログラムもありました。タイトな工程上、移動を急いだこともありますが、今思えばもう少し余裕をもって対応できれば良かったかなと思っています。これから春には新クマ舎や今回の小獣舎など多くの動物の移動を手掛けなければなりません。あらためて、動物の移動方法や手順等について獣医・飼育員間で意見交換をし、リクの死を無駄にしないようにしていきたいと思えます。



飼育員からスイカのごちそう

なお、今月いっぱいリクの献花台を設けました。工事中ということでちょっと殺風景な場所ですが、子ども動物園ふれあい広場の一角に設けてありますので機会がありましたら訪ねてみて下さい。最後にメッセージなどをお寄せ頂いたリクのファンの皆様に、あらためてお礼を述べたいと思います。



献花台とメッセージノート

こちらのサイトもどうぞ（連載中）：[どうぶつのに](#)（新しいウインドウが開きます）

（平成24年2月18日）

2012年2月18日

バシャンとチャポン

バシャンとチャポン、何のことかわかりますか？わかる方は相当な「かみね動物園」通だと思えます。これは当園で飼育している2頭のカバの名前。バシャンはチャポンのお母さんで14頭の子どもを出産した子沢山母さん。チャポンはその末娘ですが、バシャンは現在国内最高齢のカバです。



バシャン（右）とチャボン

昭和38年3月12日生まれなのでもうすぐ49歳。カバの寿命は平均40年から50年だそうですので、かなりのおばあちゃんではあります。動きもよっこらよっこら、という感じですがそれに加えて冬の間は冷たいプールに入ろうとしません。カバの皮膚は乾燥に弱く日中はほとんどを水の中で過ごすのですが、この時期陸にいるとカラスが動きの遅いカバの背中をつつきます。薄い表皮のため赤い肉があらわになり、見ているお客さんからも「かわいそう」とよく言われます。獣舎の近くにいれば棒などで追い払えるのですが中ほどにいるとどうすることもできません。このため、皮膚の乾燥防止上とカラス対策も含め、この寒い時期は早めに寢室の温水プールへ入れ、お客様からは裏から見てもらうようにしています。



冬のカバ



カラスにつつかれた跡



グラウンドにいないときはこの看板



寝室内の温水プール

以前、市内のある方からお電話をいただきました。内容は、「かみね動物園のカバが名前入りで本に載りました、ぜひ、目を通して見て」と喜び勇んでかけてきたような感じでした。早速、本屋さんへ行きお目当ての本を探しました。本のタイトルは「'09年版ベストエッセイ集・死ぬのによい日だ」（文藝春秋刊）というもの。各界の著名人などが折々に発表されたのをまとめたもので、わが動物園のカバ、バシャンとチャポンを紹介してくれたのは俳人で坪内稔典さんという方。この方は全国24箇所の動物園のカバを訪ね歩くという相当なカバマニア。かみねはその23番目に訪れた動物園ということで、そこまでに至った経緯やカバにまつわる俳句、かみねの様子などが短いながらも面白く描かれています。興味のもたれる方は本書の方をどうぞ。



夏のカバ



早く暖かくなーれ

カバに限らず動物園には一般の家族連れなどとは明らかに一線を画す、いわゆるマニアの方も結構やってきます。そうした方たちはお目当ての動物がいれば他の動物には目もくれず、一日中対象動物の前で時を過ごします。カワウソ、レッサーパンダ、ゴリラ、キリン、ライオンなどはよくそういう方たちの垂涎の的となるようで、東京を始め千葉や神奈川、埼玉、遠くは秋田などからやってきたという方々にお会いすることがあります。梅雨時にもかかわらず、カワウソの前で朝から夕方まで観察したり写真を撮ったりしている方もいらっしゃいました。頭の下がる思いです。



ファンも多いコツメカワウソ

動物園の楽しみ方は色々あっていいと思います。1種類の動物を追いかけるピュアでマニアックなものから、子供やおじいちゃんおばあちゃんを連れてワイワイ賑やかに1日を過ごすなど思い思いに動物園を楽しんでください。そして日本で一番長寿のカバに会いにければ、健康で長生きになれるかも？（ちなみに、バシヤンのほうが体が小さく左前脚が白、右前脚が白いのがチャボンです）



左前脚が白いバシヤン

こちらのサイトもどうぞ（連載中）：[どうぶつのに](#)（新しいウインドウが開きます）

（平成24年2月8日）

2012年2月8日
